ハムスターの飼育方法　『地下型の巣箱』方式

　ハムスターにはハムスター特有の本能と習性があります。
それは例えば、
●地下の巣穴の複数の部屋を上手に使い分けて生活する。
●オシッコはトイレ室だけにして巣穴全体の清潔を保つ。
などの行動で見ることができます。
　ハムスターのＤＮＡにもともと組み込まれているこれらの行動を、実現させてあげるのが、ここで紹介する『地下型の巣箱』方式の飼育方法です。
　この飼育方法の効果は、
●健康　⇒　ハムスターが活き活き健康に育ちます。
●コミュニケーション　⇒　ハムスターと飼い主が信頼し合い、仲良くなることが出来ます。
●観察　⇒　ハムスターの巣の中の行動をいつでも観察・確認することが出来ます。
などです。

　『地下型の巣箱』方式の飼育方法で飼育することで、ハムスターの学習能力が高いことと、とても賢い動物であることを観察することが出来ます。
↓
　飼い主と楽しくコミュニケーションをとることができる、ペットとして飼育できる最も小さい哺乳動物、それがハムスターです。

【目次】

2．食料の準備

3．トイレ材その他の準備

§Ⅰ　≪飼育方法≫

ハムスターを迎えてから１週間までの飼育方法　最重要

≪最初の１週間が最も基本的かつ重要な期間です≫

この期間は、ハムスターに触れずにそっとしておいて上げます。

ハムスターの迎え方の基本

【目次】

ステップ１

●事前準備

①飼育セット一式を準備します。
　§Ⅱ≪準備篇≫、及び当ホームページの≪飼育セット≫を参考にしてください。
②このとき（ステップ５まで）は巣穴を塞いでおきます。
　『地下型の巣箱』を与えるのはステップ６からです。
③寝床にする巣材を、衣装ケース【地上の生活環境】の片隅に置きます。
　巣材はティッシュや新聞紙や布などを細く裂いた物などです。

ステップ２（１日目）

●ハムスターを迎える

①ハムスターが入ってきた入れ物ごと衣装ケースの中【地上の生活環境】に置きます。
この入れ物が、環境に慣れるまでの間の隠れ家になります。
②この入れ物が無いときは、隠れ家を仮設します。牛乳パックとかティッシュペーパーの箱に出入口の２cmφほどの穴を開けて、平らなところに固定して置きます。
③この入れ物の中でお腹がすかないように、あらかじめ食べ物を二日分ぐらい入れておきます。
④入れ物から【地上の生活環境】に、出ようと思ったときに自由に出て行けるようにしておきます。
⑤ステップ８まではハムスターとの接触（スキンシップ）はしません。歓迎会はステップ９以降にしてください。
【ポイント　＝　ハムスターの心理】
　迎えたばかりのハムスターは、環境が変わって恐怖と不安で極度の緊張状態にあり、ストレス度は最高レベルに達しています。
【緊張状態のときのスキンシップは逆効果です】
　このとき、他の動物（人）に優しく撫でられても、不安⇒恐怖⇒撫でられる⇒撫でた人⇒悪い印象　を学習し記憶してしまうだけです。
　ハムスターの心理を正しく理解してあげましょう。ハムスターが家に来たら、まず、ハムスターのペースでハムスター自身が、新しい環境に落ち着くための期間を与えてあげましょう。この期間はステップ８までの約１週間です。

ステップ３（１～２日目）

●【地上の生活環境】で落ち着かせる

　このときのハムスターは、恐怖と警戒心のために入れ物の中に引きこもっています。

恐怖心と警戒心が少しずつ収まって自分から出てみようと思うまで、入れ物から出なくても済むようにしてあげます。ハムスターがハムスターのペースで自主的に行動できるようにしてあげることが、良い飼育環境の絶対条件です。

「お腹がすいた」「オシッコをしたい」「ねむい」。という本能的な最低限のことが出来れば、次に「ここは何処？」「危険は?」「安全だろうか？」などの生きるための確認が始まります。

ステップ４（2～5 日目）

●【地上の生活環境】を認識させる

①ハムスターは少しずつ周りの環境を確認して、活動域を広げていきます。
②食べ物を得ることができて、水を飲むことができて、隠れて寝ることができて、オシッコをするトイレ（野外トイレ）がある【地上の生活環境】を認識し、とりあえずでも受け入れたことを確認してください。
【ポイント　＝　ハムスターの心理】
とりあえずこの環境を受け入れても、家が無いので、家を作るためにこの環境から逃げ出さなければならないという心理の基に、常に逃げ道を探す行動を見せます。

ステップ４の完了は、野外トイレにオシッコをするようになるのが目安です。このことは、次のステップへの移行を確実にするために、とても重要です。

●なお、『地下型の巣箱』の飼育方法に慣れた方、あるいは『地下型の巣箱』で生まれ育った子ハムスターの場合は、ステップ２．３．４．を省略することが出来ます。

ステップ５（３～６日目）

●『地下型の巣箱』のトイレの方式を決める

トイレ方式とは、トイレ材の固まる砂・砂・紙砂・オシッコシートなどを言います。
①ハムスターが野外トイレの方式を十分に受け入れたことを確認します。この確認はとても重要です。
②『地下型の巣箱』の小部屋の２つをトイレ室候補にして、野外トイレと同じ方式のトイレをセットします（砂を入れるなどです）。砂を入れるために入り口を高くしている小部屋がトイレ室にお薦めです。

③このトイレ室候補の２部屋にオシッコのにおいの付いたものを入れておきます。（自分のにおいで安心させるためです）

【厳守事項】
●これ以降、『地下型の巣箱』の『透明な観察板』を開けるのは、ハムスターの外出中にトイレの掃除と汚れたものを取り除くときだけです。物を入れたり、移動したりすると、「敵に侵入された!!」と錯覚して、まずマーキングで警戒態勢に入ります、ときには「危険だ!!」と判断すると『地下型の巣箱』を放棄してしまう場合もあります。

ステップ６（３～６日目）

●『地下型の巣箱』を開放する

①ステップ５で『地下型の巣箱』のトイレ方式を決めてから、ステップ１で塞いでおいた巣穴を開放します。

　ハムスターは、夜の活動ですぐに巣穴を見つけて『地下型の巣箱』の中に入り、検査を始めます。
安全であることを納得すると、『地下型の巣箱』を自分の家にする行動に移ります。

ステップ７（４～８日目）

●『地下型の巣箱』の使用状況を観察し確認する

①『透明な観察板』越しに『地下型の巣箱』におけるハムスターの巣穴の三大習性の行動を観察します。
[三大習性の行動]
　１．寝室を決めてそこに寝床を作り安眠します。
　２．トイレ室を決めてトイレ室だけでオシッコをして、他の部屋を清潔に保ちます。
　３．貯蔵室を決めて食べ物を貯蔵します。
②[三大習性の行動]ができていることを確認します。

ステップ８（５～１０日目）

●自分の家を認識させる

①『地下型の巣箱』が誰の侵入も無い、自分の１００%聖域であり、安心して熟睡し、リラックスできる自分の家であることを学習し、認識したことを確認します。
[三大習性の行動]が確認できれば、認識の証になります。
②これで、ハムスターのお迎えは、成功です。

何よりも重要なことは、ハムスターは念願の自分の家＝100%自分の聖域を得たことです。
このことにより、ハムスターはこの飼育環境から逃げ出す必要が無くなりました。
今まで見せていた、外に逃れようとしていた執念のような行動は、外を探検するための行動に変化します。もし、外に出ても、安眠できて、安全な、食べ物も貯蔵してある自分の家に戻ってくるようになります。

【ポイント　＝　ハムスターの心理】
【ステップ１からステップ８までの間はだいたい一週間前後です】
この期間のハムスターは、新しい環境を受け入れることと、自分の生活環境を整えることに精一杯で、飼い主とコミュニケーションをとるような心の余裕はありません。
ハムスターはにおいや音や話し声や振動で、当然のことながら人間の存在を感じ取っています。しかも、恐怖心が徐々に薄らいできたこの一週間の間に、人間は自分の聖域に侵入してくるような敵ではなさそうだと言うことを学び始めています。ハムスターの心に、飼い主とコミュニケーションをとる余裕が生まれてくるのがこの時期です。

ステップ９

●いよいよコミュニケーションの開始です

ハムスターは、自分の家を正しく認識すると、安心し、本能的にもリラックスすることができ、心に余裕ができてきます。
心に余裕を持ったハムスターは、好奇心がとても強くなり、学習能力も高まります。ハムスターはもともと好奇心がとても強く、そしてとても賢い動物であることをまず知っておきましょう。
①いよいよコミュニケーションをとる心の準備が、ハムスターに整いました。
②水を取り替えたり、食べ物を補給したりするとき、ハムスターが『地下型の巣箱』の中に居ても、優しく声を掛けるなどして、声の主が危険で無いことを学ばせます。
③食べ物の袋をカサカサさせるなどハムスターが気になるような音を立てて、さりげなく好奇心を刺激します。

すると、ハムスターは、その音や声が気になって気になって、確かめたくなって、いつか巣穴の近くまで出てくるようになります。
④危険でないことを納得すると巣穴から顔を出し、
やがて、出てきます。
これが【対等なコミュニケーションの始まり】になります。
　なぜなら、ハムスターには、≪嫌なら出てこなくても良い≫という選択肢があるからです。
　安全な巣穴から自分の意思で出てきたということは、**ハムスター自身がハムスターの意思で、皆さんとのコミュニケーションを望んでいるというなによりの証です。**

　この対等のコミュニケーションの関係が出来上がると、たくさんの楽しいことが始まります。
　手に載ってくれたり、頭まで登るなど身体中を歩いて確かめたりします。信頼関係が確立すると、『地下型の巣箱』に侵入しても平気になる場合もあります。（逃げ出すためのルート探しのためによじ登ってくる行動と混同しないでください）

　このステップでハムスターとの対等のコミュニケーション関係を成功させる秘訣は、ハムスターの強い好奇心を飼い主が認識して上手に刺激することです。飼い主が飼い主のペースでハムスターに近づくのでなく、ハムスターの方から飼い主に興味を持つように仕向けることです。

　【間違えやすい迎え方】
　可愛いハムスターが来ると、どうしても手に載せるなど可愛がってしまいます。しかし、迎えた飼い主の気持ちと、このときのハムスターの気持ちは、天と地ほどの違いがあることを察してあげましょう。
　無力のハムスターは成されるままで、食べられてしまうかもしれない恐怖さえ抱いているかもしれません。このようなときに接した飼い主を、もしかしたら、悪いイメージで記憶し学習してしまうかもしれません。
　ステップ８までは、人は距離を置いて優しく見守り、観察するだけにして、ハムスターが安心して、環境を受け入れることに専念できるようにしてあげましょう。
　この≪ハムスターの迎え方≫は、人に馴れさせる前に、環境に慣れさせることの重要性を知っていただき、しかも、ハムスターとの良好なコミュニケーション関係を上手に確実に築くことが出来る方法をご紹介するものです。

●厳禁事項

『地下型の巣箱』の中にハムスターが居るときに、やってはいけないこと。
1．『透明な観察板』を開けること。≪侵入になる≫
2．『地下型の巣箱』の中に物を入れたり移動したりすること。≪侵入になる≫
3．『地下型の巣箱』を動かすこと。≪地下の巣穴は動かない≫
　『地下型の巣箱』はハムスターにとって、大地の巣穴と同じ聖域です。揺れ動いたり、侵入者が入ったり、入った形跡があれば、聖域で無くなり、自分の家という認識も薄くなり、時には『地下型の巣箱』を危険な場所と判断して、『地下型の巣箱』すら嫌いになってしまう場合もあります。侵入者に警戒心を持つことを学習してしまいます。
　自分の部屋にむやみに入ってきて欲しくないのは人も同じですよネ。
　飼育者の都合やペースでなく、ハムスターの気持ちとペースで考えれば解かる事です。

●注意事項

　ステップ9までを正しく進めても『地下型の巣箱』で[三大習性の行動]を上手にできない場合があります。それは、[三大習性の行動]に専念できないことによります。
　それには、次のような原因が考えられます。
1．別のハムスターが近くに居る。
　縄張り主張の習性が働いてしまいます。相手の強さによって、追い出したいのか、自分が逃げだしたいのか、大きなストレスになる場合があります。これは、『地下型の巣箱』の中にマーキングをすることで判断できます。
2．近くにペットが居る、猫は特に警戒します。
　但し、『地下型の巣箱』を完全に聖域化してあげることで、これらのストレスを軽減してあげることができます。【地上の生活環境】には気になる事があるけど、家の中【地下の生活環境】にいる限りは安全だ‼と言うことをハムスターは学んでくれます。そうなれば、1や2の場合でも、『地下型の巣箱』の中でリラックスするようになります。

●リセット

　『地下型の巣箱』を聖域化すること（ステップ8）に失敗した場合、あるいは、途中から『地下型の巣箱』を使用している場合など、リセットすることができます。リセットは少なくともステップ4まで戻ってください。何処まで戻るかは、何処で失敗しているかによります。
　リセット中は、ハムスターと距離を置いて、ハムスターのペースを守ってあげるのは言うまでもありません。

お詫び：『地下型の巣箱』の取扱説明書では、このステップ1～9までを詳しく述べていませんでした。取扱説明書と併せて参考にしていただければ幸いです。なお、この≪ハムス

ターの迎え方≫を、取扱説明書の前段として編集するよう、準備いたします。

2．日常の飼育方法

●ハムスターが飼育環境になじんだあと

【地上の生活環境】
食べ物　毎日補給します。古くなったものは取り除き、いつも新鮮なものを与えます。

食べ物の量　与える量は豊富に欲しがるだけ与えます。ハムスターは『必要なものを必要な量だけ食べます』

[解説]ストレスを解消してあげたハムスターに食べ物を豊富に与えた実験では、体格は良くなりますが肥満には決してなりません。余分に与えた食べ物はせっせと貯蔵するようになります。偏食もしません。自然界で食べ物が豊富にある場所のハムスターが肥満にならないのは、当たり前のことで、もともとハムスターに備わっている『必要なものを必要な量だけ食べる』という自然のシステムがあるからです。
ストレスがこのシステムを壊してしまうのです。

水　水はボトルの全入れ替えが基本です。夏季は毎日取替えが望ましいです。

野外トイレ　毎日掃除します。オシッコの跡は観察の都度、気が付いたら取り除きます。

床材　【地上の生活環境】の床材を毎日取り替えます。（床材は取り替えやすい新聞紙がお薦めです）

巣材　減っていたら補給します。テッシュペーパーや新聞紙や布を細く裂いた物や、コットンや毛糸、枯れ草など、ハムスターが選んで巣の中に運びこめるようにしておきます。季節によって好みが変わる場合があります。

その他
砂浴びを使っている場合は、常にさらさらの乾燥状態であること。

回し車　汚れを落とします。
隠れ家　【地上の生活環境】にはトイレットペーパーの芯や、お菓子の小箱に２５φ位の穴を開けたもの。市販のハムスターの家。などを置いておき、時々レイアウトを変化させてあげます。

観察

観察はとても重要です。

『地下型の巣箱』は巣の中のハムスターの行動をつぶさに観察できる構造です。

観察は、ハムスターの可愛い仕草を楽しむだけでなく、日常の行動を良く観察することによって、ハムスターの習性を知ることができ、また、個性を知ることができます。

そして、健康状態を知ることができます。

継続的な観察によって、万が一の異常をいち早く察知することができます。

≪失敗しないために≫

この『地下型の巣箱』方式において、ハムスターの巣穴の三大行動である

1．寝室を決めて寝床を作る。
2．トイレ室だけにオシッコする。
3．食べ物を貯蔵する。

の行動を実現させるのは実に簡単なことです。
もちろん訓練や練習など不要です。
なぜなら、この三大行動はもともとハムスターの本能と習性による自然の行動だからです。
この自然の行動を引き出すためには、正しい環境を整えてあげて、正しい方法で飼育してあげれば良いのです。

すでに、沢山の方から「ハムスターの三大行動が確認できた」という報告をいただいています。

しかし、上手く出来ないという方からのメールも頂くことがあります。
上手くいかない原因の一番多いのが最初の一週間のしかも初期段階の介入と侵入です。つまり、かまいすぎです。

ハムスターは新しい環境を受け入れるのに精一杯のときに、撫でられたり抱かれたり人のペースで可愛がってあげることが、ハムスターのペースを乱してしまうのです。
成功のポイントは、
放って置くぐらいにそっとしておいて上げることです。
始めの一週間は、ハムスター

§Ⅱ　≪準備篇≫

１．飼育セットの準備（ホームページの飼育セットを参考にしてください）

飼育セットは【地上の生活環境】※1と、【地下の生活環境】※2の二つから成り立ちます。

【地上の生活環境】の準備

①飼育ケース※3　市販のポリプロピレン製の衣装ケースをホームセンターなどで購入します。

選定のポイント

○　寸法⇒床の広さの目安は４０×２７センチ＝新聞紙 1/2 面相当です。

○　軽くてしっかりしていること⇒衣装ケースを持ち上げて『地下型の巣箱』の巣穴の生活を観察します。いつでも簡単に気軽に観察出来るように、軽量の衣装ケースをお勧めします。また、回し車や水ボトルを側面に取り付けるので、あまりぺこぺこしたものはお薦めできません。600～1200 円程度。

【加工】（加工しない方は、注文することができます）

○　底部に巣穴を開ける。⇒【地下の生活環境】への入り口です。（必須）

○　回し車の取り付け穴を開ける。（任意）

○　水ボトルの取り付け穴を開ける。（任意）

○　底部に通気用の子穴（３～５㎜φ）を数十個開ける。（任意）

②トイレ　市販のトイレセットを購入します。

掃除を簡単に出来ることが最も重要なことです。

③回し車　市販の回し車を購入します。

④食器　形は自由です。ハムスターがひっくり返さない形にしてください。

⑤水のみ　市販のボトルを購入します。毎日取り替えるので取り扱いが簡単なものが良いです。ひっくり返らなければ床置きの小さな器でも良いです。

【組み立て】

○　衣装ケースに回し車をセットする。

○　衣装ケースに水ボトルをセットする。

○　トイレセット、食器などを置きます。

【地下の生活環境】の準備

⑥『地下型の巣箱』を用意します。

木で自作します。自作しない方は、注文することができます。

※1【地上の生活環境】は、食料を探すところ。水を飲むところ。巣材を探すところ。縄張りを主張するところ。運動するところ。オシッコをするところ。砂浴びをするところ。回し車を回すところ。飼い主とコミュニケーションをとるために出てくるところ。身を隠す

ところなど。

※2【地下の生活環境】は、ハムスターの家です。安眠・熟睡するところ。食べ物を貯蔵するところ。ご飯を食べるところ。身づくろいをするところ。オシッコをするところ。
　ハムスターがホット安心する安全な聖域です。これは、人間の家と同じ機能です。
母ハムスターにとっては出産・育児をするところです。

※3飼育ケースは、通気が悪いなどとマイナス評価を見受けますが、ハムスターが生活するのは衣装ケースの外ですので、通気の心配はありません。広い運動スペースが確保できること、ポリプロピレン性（食器や弁当箱などの素材）の安全性、加工性のよさ、軽量、廉価で入手が容易であることなどから、この飼育方法の推奨品としています。

２．食料の準備

食料は市販のハムスター用のペレットをお薦めします。メーカーが栄養バランスを考えていますので安心です。
同じく、市販のハムスター用ミックスフードもお薦めです。
その他、野菜や果物など新鮮なものをあげます。また、ひまわりの種やかぼちゃの種なども好物です。
但したまねぎなどあげてはいけないものがありますので注意してください。

３．トイレ材その他の準備

　トイレ材　トイレ材は、私は固まる砂を常用しています。臭いも無く、砂浴びも兼用できて、何よりも、管理がし易く清潔を維持できるのが第一です。
　普通の砂、紙の砂、シートなど使い慣れたもので良いです。

　床材　【地上の生活環境】の床材は、毎日取り替えることができる新聞紙をお薦めします。新聞紙１面分を半折りにして敷き、巣穴の穴を開けてセット終了です。

⑥その他　砂浴び場、隠れ場所など。
砂浴び場
ハムスターは砂浴びを好みます。トイレが固まる砂や砂の場合にはハムスターは兼用しますが、紙の砂やシートをトイレ材に使用している場合には、別に砂浴び用の設備が必要です。

隠れ場所
【地上の生活環境】の中で咄嗟に身を隠す場所があるだけでハムスターは安心します。トイレットペーパーの芯やお菓子の小箱などを置いておくと【地上の生活環境】に変化が出ます。一般のハムスターの家も、隠れ場所として有効です。

育て方の基礎を知りたいとのご要望にお応えして、編集・整備中です。
皆様にご利用いただけるように編集したいと思っています。
ご意見・ご質問、歓迎です。

2008.晩秋『地下型の巣箱』